

対象	小学校中学年以上
教科	社会科
該当 単元	小学3年 「かわってきた 人々のくらし」 ・古い道具と 昔のくらし
教科書	東京書籍等
掲載日	2014.9.29. 朝刊 三河総合版

昔の道具使い
脱穀など体験

設楽で児童ら

設楽町田口の奥三河総合センターで二十七日、小学生たちが昔の道具を使い、脱穀や粃摺りを体験した。

町内で活動する地域おこし協力隊が、「機械がなかった時代の知恵と工夫を知ってもらおう」と企画。設楽町田内の後藤修一さんが手刈りで収穫し、はざに掛けて干した約四十束の稲を提供した。

参加者たちは「千歯扱き」と呼ばれる道具で稲穂をしごき、手回して風を送る「唐箕」にかけて選別。ガラス瓶に入れた粃を棒でつ



「千歯扱き」と呼ばれる道具で脱穀を体験する児童ら。設楽町の奥三河総合センターで

き、玄米に仕上げた。道具は、町の奥三河郷土館の収蔵品を活用した。来月は米を使ったお菓子作り、十一月には正月飾りのわら細工講座を予定している。

姉妹で参加した津具小一年の河辺倫帆さん（六）と三年の倅帆さん（九）は「疲れました。手が痛くなった」「お菓子にして食べるのが楽しみ」と話していた。

問1：むかしの道具を使ってみる^{たいけん}体験を考えたのはだれでしょう。また、なぜそれを考えたのでしょうか。

考えた人たち（ ）

理由（ ）

問2：この記事に出てくる2つの「むかしの道具」は何でしょう。

（ ）と（ ）

問3：2つの道具を使った後で玄米に仕上げるために、どんなことをしましたか。

^{もみ}粃を（ ）に入れて（ ）で（ ）。

問4：あなたが知っているむかしの道具には何がありますか。思いつくものを書きましょう。

（ ）（ ）

（ ）（ ）

（ ）（ ）